

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530032		
法人名	医療法人健山会		
事業所名	グループホームすみれ・梨の木 A棟		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町字梨木西44-1		
自己評価作成日	平成31年1月30日	評価結果市町村受理日	令和元年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成31年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた猪苗代町で、今までの生活を継続できるような環境を作り、季節を感じる事の出来る家庭的な雰囲気の中で、心のこもった料理を手作りで提供している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 利用者にとって、食事が大きな楽しみであることから、季節感のある旬の食材を使用した手作りの料理にこだわり、楽しく食事ができるように支援している。さらに、栄養バランスや彩を考え、利用者の嗜好を考慮しながら、利用者の年代層にあった食事づくりに努めている。 2. 状態の重い利用者も受け入れ、最期まで事業所で安心して暮らせるように、協力医の支援を受けながら看取りを行っている。家族が宿泊できる環境を整え、夜勤職員に加え、緊急時の夜間対応職員として自宅待機の職員を配置し、安心して看取りができる体制整備を図っている。 3. 定期的に理念の見直しを行い、職員が協議して新たな理念を策定し、さらに、利用者への対応について、管理者は職員との話し合いを通して理念の浸透を図り、利用者本位のケアの実践に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届くところに掲示して、少しでも理念に基づき実践に繋がるよう心掛けている。	現在の理念は、2年前に職員で話し合っで見直しを行い策定したものである。玄関の正面に掲示するとともに、各ユニット及びユニット間の連絡ファイルに添付して記録の都度確認できるようにしている。また、管理者は日頃のケアのなかで職員へ声をかけ、大事にすべきことを説明しながら理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が毎月参加していたサロンに引き続き数名をお連れし、歌を歌ったり運動したり、みんなでおやつを食べ談話している。	町内会に加入しているが、周囲が商業地域で民家がないことから回覧板が届かず地域の情報の把握が困難な状況にある。しかし、月1回地域で開催している生き生きサロンへ利用者とともに出かけ、交流を図っている。また、毎月第3木曜日に同法人の隣接施設で開催しているカフェに参加し、その利用者や地域住民と交流している。	地域の生き生きサロンや隣接施設のカフェに参加し、地域との交流が図られているが、さらに、地域活動や地域行事への参加など地域の一員として地域住民との交流を図る取り組みが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小規模でのカフェで地域の方々との交流の場に参加したり、ボランティアの方々とのふれあいで理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	最新の利用状況、事故報告など行い、困っている事など気楽に話し、どうしたらいいか改善策の意見を頂き取り入れている	運営推進委員会は、役場職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域の代表者、家族代表が参加し、年6回開催している。入居者の状況や行事などの報告の後に委員からは様々な質問や意見が出され運営に活かしている。さらに、外部評価写しを配布し、改善に向けた取り組みを報告しながら、モニター役になって貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ネットワーク会議や、研修会など参加しながら情報交換を行い協力し合っている。	役場職員が、運営推進会議委員になっていることから情報共有がなされており、事業所の実情について理解が得られている。また、何かあれば役場の担当者に連絡して相談している。さらに、管理者は、ばんだい地区包括ケアネットワーク会議等に出席し、役場等との情報交換を行い連携や協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の時に資料を基に話し合い、研修に参加した人から報告したり理解を深めるように取り組んでいる。また、3カ月に1回は身体拘束について話し合う機会を設けている	事業所において、身体拘束防止に関する研修を年4回実施し、職員へ周知を図っている。ケアの問題や事故の発生は、個人の責任ではなく職員全員の責任であるとの共通認識を図っていることから、職員が互いに注意し合える環境ができており、日頃のケアの中で、その都度注意し合い、スピーチロックなどの防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	常に、テレビや新聞に報道された虐待の内容に対し話し合ったり、研修に参加し注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会など勉強する機会があれば参加し、理解を深め活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族から、心配な事は細かく伺い、こちらの説明も納得して頂くまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、要望などはいつでも時間を取り、話し合う機会を設け改善している。	利用者の意見は、日常の会話のなかから把握するようにしている。会話が困難な利用者は、表情や態度、家族から聞いた情報などから汲み取るようにしている。家族の意見は、面会時に職員から声かけを行い、把握するようにしている。出された意見は運営に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟主任は、いつでも困っている事はないか職員に声掛けを行い、管理者に報告しながら、全体会議でも意見交換をしている。	毎月、開催している職員会議で、職員の意見を聞く時間を設けている。職員は、問題等を直接、管理者へ言うて来ることの方が多い。定期的な個人面談は行っていないが、問題が発生した場合や職員の様子の変化を見て、管理者は個人面談を行い、職員の悩みや意見の把握に努めている。出された意見は運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者との打ち合わせの回数を多く持ち、現場の状況をよく把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップの為に研修に参加できる機会を多くするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ企業間の交流、地域における勉強会等に積極的に出席するようにしたり、地域の同業者と交流できるネットワークに参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様本人に不安による心配事は無い か傾聴し、安心してサービスを受けられる関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家屋からの要望は、常に遠慮なく相談して頂く様声掛けし、信頼関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様本人の今の状況と家族が求めている支援を話し合い、ケアプランを立て実施するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の出来る事を把握し、少しでも自立出来るよう支援し、家族的な雰囲気も築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方との連絡情報を共有出来る様、面会時に日頃の状況を伝え、家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様本人が大切にしてきた方が、気楽に来れる様に配慮し、行きたいと希望される場所には、お連れして関係が継続するよう支援している。	馴染みの理容室に定期的に通い、そこで出前を頼みラーメンを食べてくるのを楽しみにしている利用者がある。職員は理容室までの送迎を行い、馴染みの関係継続を支援している。お墓参りは家族の協力を得て実施しているが、家族から付き添いの依頼を受けて職員が同行したこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の今の状況や性格を把握し、会話出来るよう席を替えたり、安心した日常生活が出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人家族の相談に応じ、関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活している中の会話で一人ひとりの思いに気付く様努めている。困難な場合は、本人の立場に立ち、必要に応じた支援を行う。	利用者の思いは日常の会話から把握するようにしている。特に、入浴中に本音が出ることで、利用者の話に耳を傾け把握に努めている。会話が困難な利用者には、表情や態度などから思いを汲み取っている。また、ケース会議や申し送りにおいて、職員間で話し合っ利用者思いの把握に努め情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、これまでの人生の歩み、生活環境などの情報を頂き、少しでも良い生活を提供出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に、日常生活の様子、表情、動作の変化を見逃さない様努め、職員間で情報共有し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を良く観察しながら、家族からの意見、要望を伺い、話し合いながら現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランは、居室担当が本人や家族の希望を踏まえ、ケース会議や申し送りで職員の意見をまとめ、ユニット主任、計画作成担当者(管理者)と話し合っ作成している。また、モニタリングも、居室担当が本人の状態変化や職員の意見などの情報収集を行い、主任や計画作成担当者と協議して行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子、状況を記録に記入し、職員間で話し合い情報を共有しながら改善策を取り入れ、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活状況に合わせ、必要なニーズに応じ、不安や心配のない柔軟な支援が出来るよう、サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で親しくしていた友人に気軽に来て頂いたり、買い物支援に同行し、安全に買い物ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応以外は、スタッフが同行し受診を行い、体調が悪い時は家族と主治医に連絡し対応する。	これまでのかかりつけ医にかかれるよう家族と連携を取っている他、体調の変化がある時には医師宛の手紙や受診同行をする等、必要な医療が受けられるよう支援している。また往診医を中心に看取りを行っており、本人や家族の望む最期を迎えられるよう体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気付いた事を常に看護師に伝え、適切な対応、処置を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	度々洗濯物を取に行った際、今の状況を把握し、病院に相談したり情報交換に努めている。診療情報提供書などで、共有出来る体制に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ、家族と入居者様の状況について、その都度話し合い、家族の望みに添えるよう支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や看取りについての説明を行っており、本人の状態に応じて家族、医師と十分に話し合い、対応している。看取りについての研修を行っており、本人、家族、職員も安心して最期を迎えられる体制を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に事故等に対応出来るよう、緊急時対応マニュアルを含め、研修会を行い、誰でも対応出来るよう実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回は防災訓練として入居者様と全職員で色んなパターンを想定して訓練を実施している。	前回の外部評価以降、防災担当を中心に、毎月夜間や水害等の想定訓練を行っている。訓練の内容によって、消防署の立会いや地域の協力者へ相談する等している。職員の連絡体制や訓練の内容について改善できるよう職員同士で話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にして、失礼のないような声掛けを職員全員で注意し合いながら対応している。	排泄等の声掛けは周りの利用者に聞こえないよう配慮し、本人の自尊心を大切にされた対応がされている。職員同士で声をかけあい、明るく一人ひとりの利用者と接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に寄り添い、気軽に自分の思いを話して下さる雰囲気作りをして話を引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望に沿って生活が出来るよう声掛けしたり、思いをくみ取り、日々努力し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人らしさを尊重し、希望があれば望み通りに出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食べたいメニューを聞いて希望を取り入れたり、会話しながら食事を一緒に味わい、楽しい食事の時間になるよう支援している。	季節感や彩りを大切にし、各棟それぞれの献立に沿って、調理、提供している。利用者の体調を整えるため、ヨーグルトを手づくりし毎日提供している。近隣へ外食に出かける機会がある他、お花見や夏祭り、芋煮会等行事の際にも手作り弁当を楽しみ、地域の方にも配っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の状態により、食事の量や、刻み食、ミキサー食等に分けて提供し、水分が少ない人には好きな物に変更したりと水分量に気を付け対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを本人の力に応じた介助を行い、うがいが出来ない人は歯磨きティッシュを使用し、就寝時には義歯の消毒も実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレの声掛けをし誘導しながら少しでもトイレでの排泄が出来るよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄の自立を念頭に、トイレの声掛けやパット類の工夫を行っている。必要な利用者には夜勤帯も含め複数の職員で介助する等、一人ひとりの身体状態に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日バナナ入りヨーグルトを提供している。排泄チェック表を確認しながら看護師に相談したり、水分や運動を促し、出来る事を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調に合わせ、無理のないゆったりとした入浴の中で、体の変化はないか確認しながら、職員との会話で楽しい入浴の時間になるよう支援している。	週2回は入浴支援を行っており、回数や時間帯の希望があれば対応している。入浴剤やしょうぶ湯等、季節を感じながらゆったりと入浴できるよう工夫されている。また、安全に入浴ができるよう、利用者の体調や身体状態によっては複数の職員で介助したり、清拭を行う等配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに合わせて自由に休息したり出来るように、安心出来る場の提供に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を把握し、定期受診の際は必ずお薬情報を確認し、間違いがないか見比べ、違いがある時は病院へ確認の電話を入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月行事を催し、季節感を味わった事や、伝統的な事、食べ物を提供したり、趣味で落語をやっている人に披露して頂いたり、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿って散歩、花見のドライブに出掛けたり、買い物支援では、欲しい物を前もって聞き、スムーズに買い物が出るよう支援している。	暖かい時期には近隣を散歩する他、日常的に小規模多機能施設へお茶を飲みに行っている。花見や紅葉狩り等季節の外出は棟ごとに出かけ、利用者の楽しみとなっている。利用者の身体状態が様々なため、今後は小グループでの外出を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所預かりを原則とし、本人の状況に応じて、必要な所持金は確認をして使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望があれば、いつでも電話をしたり、手紙のやり取りも出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が安心して過ごせるよう、季節感を取り入れた飾りつけを工夫したり、混乱しないよう整理整頓してゆったりした生活が出来るよう努めている。	窓が大きく取られ自然光が入るつくりになっている。季節の飾りを利用者と共に作成し掲示している。共用スペースでは、本人の過ごし方に合わせソファ等設置し、ゆったり過ごせるよう工夫している。加湿器や濡れタオルを利用しての加湿や、換気も適宜行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室で過ごされたり、テレビを観るためソファに座ったり、入居者同士の談話も出来るよう、その時の状況に応じて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	一人ひとりの居室は、その人らしく家から持ってきた物を家族が配置して行かれ、使い易くなっており、安心して過ごせるようにしている。	居室入り口には利用者の名前と写真が貼ってあり、自分の部屋がわかり安心できるようにしている。本人の愛着のある、自宅から持ち込んだ写真、作品等をかざる他、ベッドやタンスの配置等安全に配慮した環境づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に応じ、危険な事を確認し、安全に生活ができ、出来るだけ自分でやれる生活が送れるよう支援している。		